

資料1 「個人カード」の例

個人カード (高学年) 6年 組 番 氏名																																																																							
学習に対する調査 (A・B・C・D)																																																																							
どの学習方法	<table border="1"> <tr><td>回</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td></tr> <tr><td>回</td><td>B</td><td>A</td><td>A</td><td>B</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>回</td><td>A</td><td>A</td><td>A</td><td>B</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>回</td><td>A</td><td>A</td><td>A</td><td>B</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	回	B	A	A	B										回	A	A	A	B										回	A	A	A	B																							
回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13																																																										
回	B	A	A	B																																																																			
回	A	A	A	B																																																																			
回	A	A	A	B																																																																			
子どもにも花あ	<table border="1"> <tr><td>回</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td></tr> <tr><td>回</td><td>B</td><td>B</td><td>B</td><td>A</td><td>A</td><td>B</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>回</td><td>B</td><td>B</td><td>B</td><td>A</td><td>B</td><td>B</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>回</td><td>B</td><td>B</td><td>B</td><td>A</td><td>B</td><td>B</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	回	B	B	B	A	A	B								回	B	B	B	A	B	B								回	B	B	B	A	B	B																					
回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13																																																										
回	B	B	B	A	A	B																																																																	
回	B	B	B	A	B	B																																																																	
回	B	B	B	A	B	B																																																																	
あ	<table border="1"> <tr><td>回</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td></tr> <tr><td>回</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>回</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>回</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>回</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	回	○													回	○													回				○										回													
回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13																																																										
回	○																																																																						
回	○																																																																						
回				○																																																																			
回																																																																							
り	<p>自分でとらえたよき すんで手をあげている。</p> <p>教師がとらえたよき 自分の考えをはっきり言うことができる。</p>																																																																						
その子なりの花をさかそう	<p>月/日 特記事項 (支援活動)</p> <p>7/2 金閣、銀閣の自慢大会では、義満になり さって、金閣のよさについて発言する。</p> <p>7/14 三人の武将から秀吉を選んで調べ学習に取り組む。</p> <p>7/16 課題についてしっかり調べているが、資料の丸写しになって ほかからなので、1人書き方を工夫するよう話す。</p> <p>7/6 土農工商裁判では、農民の立場で、武士も自分たちで</p>																																																																						

の率直な思いや願いを認識することができた。(資料1)

2 「支援」に重点をおいた授業(1)教師の「支援」についての検討

①教師主導の授業の反省から
児童が主役の授業を展開するために、児童の目の高さに立って、児童が自ら考える手がかりになるヒントや助言を出したり、自らの考えを深めるための適切な資料を提供したりすることを重視する。

②指導と評価の一体化から
児童に助言やヒントを出した後、もう一度その児童のところにきて、できていなければ再度適切な激励や助言を出して、児童の意欲を喚起する。

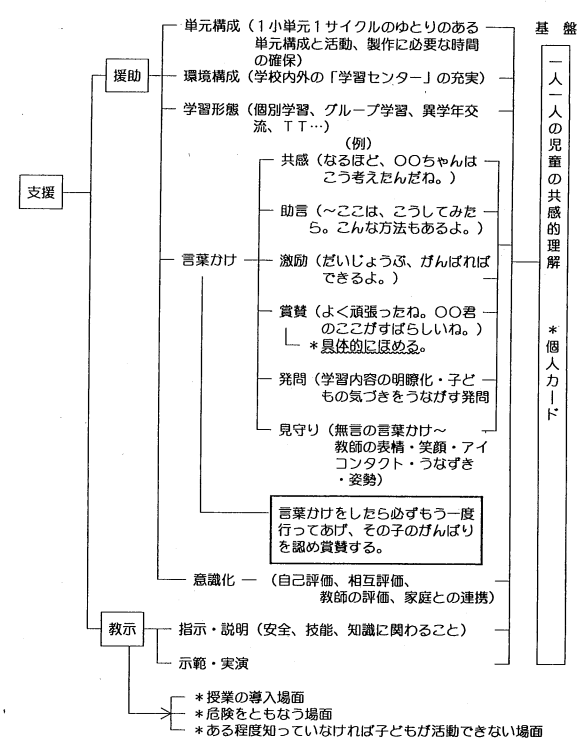
言等を出すことを重視する。以上のような考えで、日々の授業にあたるようにした。(資料2)

※ 検証授業例1参照

(2) 「学習支援案」の作成
児童の主體的な活動を促す教師の支援を重視した授業を実現するため、従来の「学習指導案」を「学習支援案」とした。

作成に当たっては、支援の手立てをできるだけ具体的に記入するようにした。また児童が主役という考えから「くさせる」という使役の表現を使わない等、支援案作成を通して教師の児童に対する関わり方の見直しを図ろうとした。

資料2 「支援」の具体的な内容



3 学校内外の「学習センター」を活用した活動

※ 検証授業例2参照

(1) 学習センター
個に応じた、個を生かす支援の手立てとして、図書・写真・ビデオ・実物等の様々な種類の資料を学習センターに準備した。自分に合った方法で学習に取り組むことにより児童の意欲的な活動を期待した。さらに、高学年では児童自身が手紙や電話等で資料を収集する等、資料収集能力を高める活動を行った。

見学学習や人材の活用等校外の学習センターを活用する活動や体験を多く取り入れ、児童の学習意欲を喚起するよう努めた。(資料3)

(2) ビデオ教材リスト
実際に見学・調査活動が難しい單元でも、できるだけ児童が興味関心を持ち、具体的に追体験できるように視聴覚教材のリストを作成し、活用した。

(3) 「NIE」活動
校内学習センターのソフト面の一つとして地方紙・中央紙八社の「新聞」を図書館に配置し、各学年の発達段階や各学級の実態に応じて活用を図ることができるようにした。

その日のニュースの発表等、読書タイムでの実践が多かった。社会科学の授業に関係する記事をスクラップ